『金曜日』で逢いましょう

「誰もが自分らしく生きられる場所を」多様な特性のある子どもや家族を支援

孤立しがちな障がいのある子どもと、その家族の交流・居場所づくりに尽力。NPO法人くるみ－来未代表・太田修嗣さんの活動の原点は、自閉症の息子の存在だ。

「寛容で思いやりに満ちた世界で、自分らしく生きてほしい」

子を持つ多くの親がそう望むのではないだろうか。しかし、現状の社会は「寛容」からほど遠いことが多い。

そんな中、「誰もが自分らしく生きられる場所を」と地道な活動を続ける人がいる。神奈川県川崎市在住の会社員、太田修嗣さん（43歳）は自閉症スペクトラムをはじめ、多様な特性のある子どもやその家族を支援する「NPO法人くるみ－来未」（以下、くるみ）の代表を務める。

障がいのある子どもと家族は、友達付き合いや交流の機会が持ちづらく、孤立しがちだ。そこでくるみでは「親子でゆるやかに過ごせる場づくり」として親子イベントを定期的に開催している。これまでお弁当作りやバーベキューなどが行なわれた。他には「おこづかい」「思春期」といった保護者が体験した困り事がテーマの勉強会、子どもたちが自分の気持ちを語り合う会「くるみ塾」など、参加者のニーズに寄り添った事業活動が行なわれている。

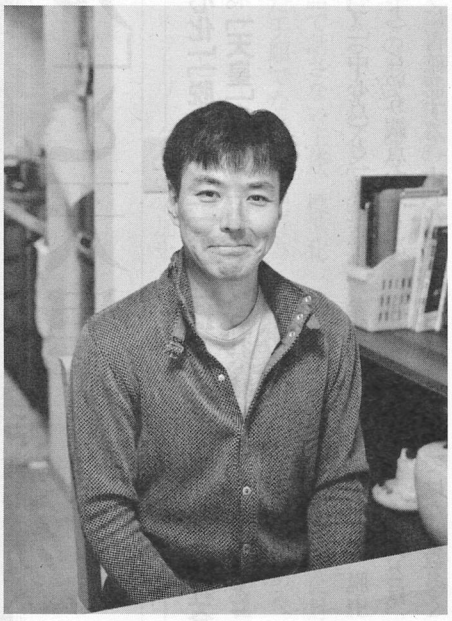
わが子への愛情が形に

太田さんが活動を始めたきっかけに、自閉症の息子・直樹さんの存在がある。

直樹さんが小学2年生の時、親子2人で海外の赴任先から川崎市に移住した。新たな環境に加え、障がいの特性によるこだわりもあり、当初は家の目の前にある学校に歩いて通えず、抱っこしての登校もしばしばあったという。

1年を過ぎた頃、多発する学校生活でのトラブルに困り果てた太田さんは、保護者や子ども同士の交流の機会が必要と感じ、同じ特別支援学級の子どもや保護者たちと一緒に遊ぶことを始めた。すると、お互い自然と分かり合える心地よい雰囲気の空間が生まれた。

直樹さんが高学年になり落ち着いてくると、改めて子どもたちの「居場所づくり」への想いが強まり、保護者を中心に賛同者を集め、2014年2月にくるみを立ち上げた。直樹さんはこの春、高校を卒業。太田さんのわが子への愛情が形となったくるみは、参加者や協力する仲間も増え、着実に広がりを見せている。



おおた　しゅうじ・1976年3月7日生まれ。本業は会社員。NPO法人くるみ－来未（URL http://kurumi naoto.org）の代表。くるみでは、自閉症など特性を持つ子どもと家族が自分らしく豊かに生きることができる社会創りを目指している。自閉症の息子・直樹さんを男手一つで育てる。

くるみの直近の目標は、市の「認定NPO法人」になり、地域拠点を構えることだ。拠点の活用イメージは、関西にある介護施設で、そこでは子育て中の母親や、小学生、お年寄りなど地域のさまざまな人が同じ空間を共有する。

太田さんはこう語った。

「人は誰もが、安心して自分らしくいられる居場所が必要です。ところが障がいや団体行動ができない等の理由で、社会に馴染めない方がたくさんいます。そんな場面を息子も私も数多く経験しました。くるみの居場所づくりは始まったばかりですが、息子のため、自分のため、地域の多くの家族のため、楽しみながらコツコツ取り組んでいきます。ゴールは『障がいのある子を育てる親が安心して暮らせる社会、さらには互いの多様性を尊重しながら成長し合える地域コミュニティの構築』です。興味を感じてもらえたら、まずはイベントに遊びに来て、子どもたちの姿を見ていただきたいです」

文・写真／伊藤ゆい（ライター）

太田修嗣さん